

**第 12 回エコエリアやまがた推進コンクール  
優秀賞（エコエリアやまがた推進協議会長賞）**  
※掲載している情報は平成 29 年度時点のものです。

名 称	しまめき せいこう 島 貫 清 孝																											
所在地	米沢市																											
応募タイトル	“命をはぐくむ食” だから、安全・安心・美味しさにこだわる！																											
<p>1. 取組の背景・経過等</p> <p>(1) 応募区分の取組み開始年 平成 18 年：水稲の有機栽培を 100a 開始（ひとめぼれ、コシヒカリ） ※水稲作付面積の 3 分の 1 に相当する面積を一気に有機栽培へ転換 平成 22 年：「つや姫」の有機栽培 100a</p> <p>(2) 動機 有機栽培農産物の生産・集荷・販売を行っている株式会社おきたま興農舎の「今後、安全・安心な農産物の需要が拡大する」との考えに同意したことから、平成 18 年に有機栽培米の生産を開始した。 これまでの農産物の販売経験から、「安全・安心」のみならず「高品質・良食味」が消費者ニーズであると分析しており、「品質・食味の向上と安定生産の両立」に取り組んでいる。</p> <p>(3) 経営状況（面積、取扱い品種等） 【平成 28 年産米販売数量】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;"></th> <th style="width: 15%;">品 種</th> <th style="width: 15%;">栽培面積</th> <th style="width: 15%;">収 量</th> <th style="width: 25%;">10a あたり収量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有機栽培米（有機 JAS 認証）</td> <td>つや姫</td> <td>110a</td> <td>4,800kg</td> <td>420kg/10a</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">特別栽培米（特別栽培認証）</td> <td>つや姫</td> <td>100a</td> <td>4,800kg</td> <td>480kg/10a</td> </tr> <tr> <td>ササニシキ</td> <td>60a</td> <td>2,880kg</td> <td>480kg/10a</td> </tr> <tr> <td>その他（栽培期間中化学肥料・化学合成農薬不使用）</td> <td>山形 95 号</td> <td>70a</td> <td>2,940kg</td> <td>420kg/10a</td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) 販路先 ※株式会社おきたま興農舎へ出荷 大手ネット食品販売会社、関東・関西方面の生協、関東・関西・中部・宮城・山形等の百貨店、直売店</p> <p>(5) 環境保全型農業直接支払交付金の参加状況 【平成 28 年度参加状況】 「有機農業」取組面積：178.7a、「水稲IPM＋秋耕」取組面積：85.9a</p> <p>(6) 各種認証の取得状況等（エコファーマー、特別栽培農産物認証、有機 JAS 認証、GAP 等） 【平成 28 年度取得状況】 エコファーマー取得 : 水稲 200a 有機 JAS 認証 : 水稲 110a 特別栽培農産物認証 : 水稲 160a</p>						品 種	栽培面積	収 量	10a あたり収量	有機栽培米（有機 JAS 認証）	つや姫	110a	4,800kg	420kg/10a	特別栽培米（特別栽培認証）	つや姫	100a	4,800kg	480kg/10a	ササニシキ	60a	2,880kg	480kg/10a	その他（栽培期間中化学肥料・化学合成農薬不使用）	山形 95 号	70a	2,940kg	420kg/10a
	品 種	栽培面積	収 量	10a あたり収量																								
有機栽培米（有機 JAS 認証）	つや姫	110a	4,800kg	420kg/10a																								
特別栽培米（特別栽培認証）	つや姫	100a	4,800kg	480kg/10a																								
	ササニシキ	60a	2,880kg	480kg/10a																								
その他（栽培期間中化学肥料・化学合成農薬不使用）	山形 95 号	70a	2,940kg	420kg/10a																								
<p>2. 取組内容</p> <p>(1) 実践している栽培技術や生産工程管理（GAP等）</p> <p>ア 土づくりの実践・工夫（土壌診断、有機質肥料） 過剰な窒素施肥による食味低下を防ぐために、農業技術普及課と連携して土壌診断（おきたま興農舎への出荷ほ場として分析）を実施し、食味を最優先とした施肥計画を策定している。 稲わらのすき込みにより、地力の維持を図るとともに、すき込んだ稲わらの腐熟促進として、秋耕及び春耕を実施している。</p>																												

### イ 化学肥料の低減(たい肥・緑肥、稲わら等のすき込み、肥効調節型肥料等)

有機質肥料の使用により、化学肥料の使用削減に努めている。有機質肥料においては、商品の肥効の違いが、水稻の初期生育に大きな影響を及ぼすことから、おきたま興農舎と連携し常に商品の情報収集を行い、肥料の選定に努めている。

### ウ 化学合成農薬の節減

水稻の有機栽培において「除草の成否」が収量に大きな影響を与えるため、マガモ除草に加え、深水管理を組み合わせている。



### エ 先進的な技術の導入に向けた研鑽等研究活動の実施

出荷先である株式会社おきたま興農舎で平成 27 年度に取り組んだ調査事業(蒸気除草や乗用除草)や、平成 28、29 年度の有機農業オープンフィールドの設置等にて取り組んだデータをもとに、新たな除草技術の導入等について検討している。

## (2) 地域や関係者との連携や集団・組織的な活動内容

株式会社おきたま興農舎が主催する有機栽培米・特別栽培米の現地研修会に積極的に参加し、技術の取得及び後進の育成に励んでいる。

特に除草においては、試行錯誤を繰り返した後、「マガモ除草」+「深水管理」の体系を確立し、除草剤使用の体系と同等の効果が得られたことから、おきたま興農舎への出荷メンバーに対して、除草体系の普及に努めている。

また、新規栽培者においては、主に「生育量(特に茎数)の確保」が課題であることから、生育量確保のための水管理を重点的に指導している。

## (3) 消費者・実需者との関わり、販路拡大の取組み等

### ア. 消費者・実需者等との交流活動

毎年、関東の米卸業者の視察を受け入れ、消費者ニーズ等の情報収集を図るとともに、生産地の取組等について積極的に情報発信を行っている。

【参考】取引先のホームページにおける情報発信  
「KITAKAMAKURASEIMAIJYO」 <http://www.kitakamakuraseimaijyo.jp/?mode=f79> (別添資料1)

### イ. 地域の食育・環境教育への参画支援

毎年開催されているオーガニックフェスタ米沢(※)に参加し、有機栽培米の対面販売を通して、一般消費者に対し有機農業の情報発信を行っている。

※オーガニックフェスタ米沢は、米沢地域有機農業推進協議会(H23年に設立)が主催している。協議会には有機農業に取り組む生産者に加え消費者も参加しており、生産・販売の両面で有機農業の普及啓蒙を図っている。内容は、「有機栽培農産物・特別栽培農産物の販売」「野菜ソムリエのライブキッチン」等。

【参考】オーガニックフェスタ米沢の開催パンフレット  
[http://yonezawanet.jp/pdf/organic\\_festa\\_2.pdf](http://yonezawanet.jp/pdf/organic_festa_2.pdf) (別添資料2)

### ウ. 体験学習の実施や学校給食への利用促進

米沢地域有機農業推進協議会の有機農業のPR活動・食育の一環として、「実際に子供たちに食べてもらう事が一番」との考えから、学校給食へのテスト導入について検討を進めている。

## (4) 人材育成活動

### ア. 人材育成のための教育・研修の内容

株式会社おきたま興農舎の現地研修会において、興農舎に出荷している若手生産者に対して、有機栽培の指導を行っている。また、研修会以外にも若手生産者の相談(生育量の確保、除草等)に随時対応している。

### イ. 教育・育成方針

生産技術の取得だけでなく、販売(消費者ニーズ)までを視野に入れた栽培について指導しており、

そのためには「品質・食味の向上と安定生産の両立」が必須であることを育成方針としている。有機栽培米についてはおきたま興農舎を通しての販売であるが、一方で独自にトマトの生産・販売を行っており、その営業活動の中で、「食味・品質が高ければ、それに見合った価格(高価格)でお客様は購入する」との経験則が得られたことから、その経験を若手農業者に伝えている。

### 3. 成果

#### (1)実践している栽培技術や生産工程管理(GAP等)の成果

JAS 有機認証のほ場で、「マガモ除草」+「深水管理」を実践することにより、雑草の繁茂を抑制し、収量を確保することが出来ている。

また、土づくりや有機質肥料の選定によって、良食味の米を生産することができ、販売先から高い評価を受けている。

#### (2)経営上の効果

関東の米卸業者の視察を毎年受け入れ、「品質・食味」「価格」といった最近の消費者ニーズの動向等の情報収集を図り、今後の品種の作付計画の資としている。これまで「ひとめぼれ」や「コシヒカリ」を作付けしていたが、卸業者からの情報収集により、現在は、「つや姫」「ササニシキ」を作付けしている。

#### (3)地域に与えた影響

株式会社おきたま興農舎の現地研修会において、若手生産者へ有機栽培の指導を行っている。有機栽培に取り組む生産者(新規栽培者含む)は、指導を受けることによって安定した生産が可能となり、取組面積の維持・拡大が図られている。

#### (4)人材育成活動の結果

これまでの当人の有機栽培への取組みや考え方が、米沢地区の有機栽培の実践者・志向者に受け入れられたこともあり、平成 23 年に米沢地域有機農業推進協議会の設立に繋がった。

### 4. その他特記事項

平成 13 年から農業技術普及課と連携し、生育調査ほを設置。調査ほの生育データや食味データを適切な栽培管理に向けて活用している。

具体的には、①使用肥料ごとの生育量確保の違い、②使用肥料・追肥時期ごとの食味成分の違いについてデータを収集し、食味と収量の両面で最善の結果が得られるように施肥量や施肥時期を決めている。

### 5. 今後の活動方向

有機栽培米の取組みを維持しながら、今後は地域における有機栽培の拡大について、消費者ニーズを見据えながら推進していく。また、東北中央自動車道の開通を契機に整備される「道の駅」において、有機栽培の情報発信や販売ができないか、行政等とも連携しながら今後検討していく。